

タイトル (活動内容)	54 チャレンジタイム (小中交流事業:クラブ活動への参加)	アプローチ (関連する力)	「自分づくり」③ 「仲間づくり」⑥ ⑧ ⑫		
タイミング (実施時期)	8～12月 (小中間で調整できた期間)	活動場所	出身小学校	所要時間	90分×(4)回
対象学年	幼・小低・ 小中 ・ 小高 中1 ・ 中2 ・中3・高	対象規模	学年	活動場面	総合的な学習の時間
活動のねらい	〈背景〉「自分は必要とされている存在」と思える自己有用感が未成熟 ・小学生から頼りにされ、自分は役に立っているのだという『自己有用感』を体感する ・中学校への安心感や中学生から専門的な技術等を教えてもらう喜びを体験する				
準備	・各クラブに必要なもの ・名札 ・筆記用具 ・ふり返しシート				
学 習・活 動		支援の観点・留意点等		資料等	
1. 導入 ・お互いの自己紹介と取組内容の確認をする		・椅子を輪にして並べ、お互いが話しやすい雰囲気作りをする		名札を胸につける	
小学生に教えてあげよう ・ 中学生に聞いてみよう					
2. 主活動 ○やり方を知る ①自己アピール「一人一言、言葉がけをしよう」 ・お互いの自己紹介をする ②相互理解「たくさん話をしよう！」 ・自分のことをもっと知ってもらうために話をする ③実践Ⅰ「アドバイスをしてみよう！」 ・クラブについて具体的な技術を伝える ④実践Ⅱ「さらに必要なアドバイスを」 ・相手が必要としているより深い具体的な技術を伝える		・「取り組んでよかった」と思えるような言葉がけをしていく ・本人の気づきがあるような言葉がけをする		ふりかえりシート	
3. ふり返し ・ふり返しシートに記入する		・体育館や多目的ホールに集まり、小中学校の教員から小中それぞれ達成できたことを伝える			
配慮事項	・小中連携による企画、立案、及び綿密な打ち合わせが必要（特に会場となる小学校側の理解・協力が必要） ・小学校、中学校での児童生徒への意識づけ、小中実行委員での打ち合わせ等の推進 ・「ふり返し学習」の大切さと必要性を小中の教員が理解し、やり方を覚えることが必要				

☆チャレンジタイム2006☆

ふり返りシート

第1回（ / ） ねらい・・・みんなと話そう！名前を覚えよう！！

☆あなたの今回の目標

☆ やってみて（反省・感想）

第2回（ / ） ねらい・・・たくさん話そう！

☆あなたの今回の目標

☆ やってみて（反省・感想）

第3回（ / ） ねらい・・・中学生としてアドバイスをしてみよう！

☆あなたの今回の目標

☆やってみて（反省・感想）

第4回（ / ） ねらい・・・クラブの小学生全員にアドバイスをしてみよう！

☆あなたの今回の目標

☆やってみて（反省・感想）

全体のまとめ

☆リーダーとして、中学生としてできたこと

☆チャレンジタイムを通しての反省・感想

小中交流授業の実践から なぜ、チャレンジタイム？

小学校と中学校が連携して、義務教育の9年間を計画的、継続的にとらえた小中連携教育が注目されています。子ども達の多様な資質や能力を大切にしながら、9か年を見通した確かな学力や豊かな心を育てる取り組みが今、求められています。

小中連携の意義は、小中間の9年間を見通した計画的かつ継続的な教科指導や生徒指導ができること、異学年同士の交流により、豊かな人間性や社会性を育成することができること、子どもの成長を長いスパンでとらえようとする教職員の意識を変革することがあげられます。

小学校は6年間で、中学校は3年間だけの個々の独立した取り組みをすすめるだけでなく、小中の9年間というスパンで、子どもの成長を見守っていきこうという発想が「チャレンジタイム」の取り組みの原点となっています。

実施に当たっては、小中教員による密接な話し合いが必要だと考えました。

まず、最初に取り組んだのが、クラブ交流活動です。小学校の高学年のクラブ活動時間に中学生も一緒に活動をするという取り組みです。当初、中学生は希望制をとり、少人数で行っていましたが、取り組みを重ねていくごとに希望者が増え、「自分の母校にも行きたい」という生徒の思いも高まってきました。そこで、平成16年度からは中学校学区内の2つの小学校の4,5,6年生のクラブ活動の時間に中学校2年生全員が”ジュニアリーダー”という形で参加する活動に拡大することになりました。新たに「チャレンジタイム」(年4回)と名称も改め、連携を充実させることを目指して現在にいたっています。

中学生は、活動を通して自分が必要とされているという「自己有用感」を感じる場面が多く、熱心に小学生に技術指導している姿は頼もしくもあり、微笑ましく感じられます。活動で一緒になった小中学生が地域でもよく話をするようになったという話も聞きます。中学生にとって、小学生から慕われ、頼りにされる経験は自分自身に対する自信と責任を確かなものにしていくものと考えています。

一方、小学生には、中学校や中学生に対する過大な心配や不安な心を解きほぐし、やがて迎える中学校生活に対する期待感を高めるという成果が見られます。中学校や中学生を身近に感じ、頼ったり甘えたりできる存在ができるということは、特に少子化社会の中で貴重な経験ではないかと実践の積み重ねを通して実感しています。

今後もいままで積み重ねてきたものを基盤に、職員のチームワークの上に、計画の段階で児童・生徒同士の話し合いを大切に、さらに充実したものにしていきたいと考えています。

